



Title	共通教育賞と授業評価アンケートの関係の分析を通じた「優れた授業」を規定する要因の検討
Author(s)	松河, 秀哉
Citation	大阪大学高等教育研究. 2013, 1, p. 9-24
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/24844">https://doi.org/10.18910/24844</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 共通教育賞と授業評価アンケートの関係の分析を通じた 「優れた授業」を規定する要因の検討

松河 秀哉

## 1. はじめに

近年のFDの実質化に伴い、学生による授業評価アンケートを実施している大学は多く、平成21年度の実施率は約8割に達する。(文科省 2011)。またFD活動の一環として「教育優秀教員の表彰」(絹川・館昭 2004)を導入する大学も存在する。優秀な教員の表彰に関しては、授業評価アンケートを実施している大学の2割程度が、授業評価アンケートの結果に基づいて表彰を行っている(永原ほか 2011)一方、例えば九州大の「教員等の報奨制度」で実施されているように、([http://www.kyushu-u.ac.jp/university/incentive\\_system/](http://www.kyushu-u.ac.jp/university/incentive_system/))、学生や教員からの推薦など、授業評価アンケートとは別の手段で受賞者を決めている場合も見受けられる。

大阪大学の共通教育の領域におけるこれらの活動を試みみると、優秀な教員の表彰に関しては、2002年度に、全学共通教育機構によって、優れた授業を行った教員や、優れた教科書を書いた教員などを表彰する「共通教育賞」という制度が設けられた。その後、2004年の組織改編に伴って、この制度は大学教育実践センターに引き継がれ、2011年度に制度が終了するまで、学期ごとに表彰が行われた。共通教育賞の受賞者を決めるにあたっては、学生と教員に対してアンケートが実施された。アンケートは、優れていると思う授業や教科書などを選んだうえ、それらの授業がなぜ優れていると思うかについて、理由を選択・記述する形式となっていた。共通教育賞の受賞者はこの結果を基に、委員会での議論を経て決定された。

次に、授業評価アンケートについてみると、2003年度に、全学共通教育機構によって開始されている。その後大学教育実践センター時代を経て、2012年度からは全学教育推進機構の管轄のもと、現在に至るまで各学期

実施されている。授業評価アンケートは、学生がいくつかの決められた質問項目について、その授業がどの程度あてはまるかを回答する形式である。

これらは、それぞれ、目的も形式も異なった調査であり、規模についても、授業評価アンケートは、学期あたり数万件程度回答があるのに対し、共通教育賞アンケートの回答数は数百件程度と大きく異なっている。しかし、いずれも授業の質に関して調査を行い、主に学生の視点から評価しているという点では共通している。ところが、それぞれの結果にどのような関係が存在するのかに関しては、これまで全く検討されてこなかった。

そこで、本研究では、共通教育賞の受賞歴によって、授業評価アンケートの結果にどのような差が存在するかを、授業評価アンケートの各項目の得点や、自由記述に含まれる単語の出現率に着目して分析する。その結果から、両者の関係について考察し、「優れた授業」とされるものにどのような要因が関わっているのかを明らかにすることを本研究の目的とする。

## 2. 分析方法

分析にあたって、対象とするデータの詳細について述べる。

### 2.1. 授業評価アンケートについて

今回分析対象とするのは、2007年度～2012年度1学期までに行われた健康スポーツ科目を除く、152,436件の授業評価アンケートのデータである。授業評価アンケートは2003年から2012年度現在まで続いているが、段階的に実施媒体や、設問が変化している。その中で、同一の設問、形式によって行われる期間が最も長かったのが2007年～2009年である。2010年以降は2009年まで

と一部設問内容が異なっているものの共通する部分も多く、比較が容易である。そこで、今回は2007年から2009年までの83,579件と2010年から2011年1学期までの68,857件のデータを分析対象とした。2007年～2009年のアンケートの質問項目を表1に、2010年以降の質問項目を表2に示す。

表1 2007年～2009年の授業評価アンケートの設問と選択肢

設 問	選択肢
(1) あなたの所属学部・学科を選択して下さい。	
(2) 授業の難易度は	1.やさしすぎる 2.少しやさしい 3.ちょうどよい 4.少しむずかしい 5.むずかしすぎる
(3) 授業内容の分量は	1.少なすぎる 2.やや少ない 3.ちょうどよい 4.やや多い 5.多すぎる
(4) 理解度を深めるための配慮(小テスト、中間レポート、ノート提出等)が払われていた。	
(5) 一学期を通して授業は体系的に組み立てられ、適切な時間配分をもって行なわれた。	
(6) 教員の話し方・説明の仕方は、わかりやすかった。	1.ほとんどそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.かなりそう思う
(7) 黒板・OHP・PowerPointのスライド・ハンドアウト等による情報提示は、わかりやすかった。	
(8) 学生とのコミュニケーション(質問を促す、ディスカッションの機会を設ける、Web-CTを利用して質問に答える等)にたいして教員は、熱心だった。	
(9) あなたがこの授業に時間通りに出席した割合は、	1.60%未 満 2.60%～70% 3.70%～80% 4.80%～90% 5.90%以上
(10) この授業の予習・復習に当てた平均時間(1週当たり)は、	1.ほとんどしない 2.30分未満 3.30分～1.5時間 4.1.5時間～3時間 5.3時間以上
(11) 全体として授業内容を、よく理解することができた。	1.ほとんどそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.かなりそう思う
(12) 総合的に見て、この授業に私は満足している。	
(13) 授業についての印象、良かったと思う点、改善すべきだと思う点を書いてください。	

表2 2010年以降の授業評価アンケートの設問と選択肢

設 問	選択肢
(1) あなたの所属学部・学科を選択して下さい。	
(2) 授業の難易度は	1.やさしすぎる 2.少しやさしい 3.ちょうどよい 4.少しむずかしい 5.むずかしすぎる
(3) 授業内容の分量は	1.少なすぎる 2.やや少ない 3.ちょうどよい 4.やや多い 5.多すぎる
(4) 理解度を深めるための配慮*が払われていた。 *授業時間内に行われる小テスト、実技のチェック等に加えて、課題として提出を求められるレポート、ノートの提出等を含む。	
(5) 授業は、シラバスに沿って体系的に組み立てられていた。	
(6) 教員の話し方・説明の仕方は、わかりやすかった。	1.ほとんどそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.かなりそう思う
(7) 授業内容の提示の仕方*は、わかりやすかった。 *黒板・OHP・PowerPointのスライド・配付資料・CALL機器等による。	
(8) 学生とのコミュニケーション*に配慮がなされていた。 *質問を促す、ディスカッションの機会を設ける、Web-CTを利用して質問に答える等による。	
(9) この授業に時間通りに出席した割合は、	1.60%未 満 2.60%～70% 3.70%～80% 4.80%～90% 5.90%以上
(10) この授業の予習・復習に当てた平均時間(1週当たり)は、	1.ほとんどしない 2.30分未満 3.30分～1.5時間 4.1.5時間～3時間 5.3時間以上
(11) この授業を通して、身につけるべきものとして期待された学習成果が得られた。	1.ほとんどそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.かなりそう思う
(12) 総合的に見て、この授業に私は満足している。	
(13) 授業についての印象、良かったと思う点、改善すべきだと思う点を書いてください。	

## 2.2. 共通教育賞について

大阪大学の共通教育においては、「優れた授業を行った教員」や、「優れた教科書を執筆した教員」など4つのカテゴリについて、学生や教員を対象にアンケートを行い、その結果に基づいて共通教育賞として表彰を行ってきた。今回はその中で、学生や教員が、一度に3名まで優れた教員を推薦する、「優れた授業を行った教員」のカテゴリでの受賞の有無のみを分析対象として取り上げることとした。このカテゴリにおける各年度の受賞者一覧については、大阪大学全学共通教育機構及びその後継である大学教育実践センターの広報誌であった「創造と実践」及び、大学教育実践センターのホームページより取得した。その上で、2003年～2011年度の共通教育賞受賞歴の有無にしたがって、2007年度～2012年1学期の授業評価アンケートにおいて1件以上の回答があった教員を分類したところ、受賞歴のない教員は1,257名、受賞歴が1回の教員は92名、複数回の受賞歴をもつ教員は24名であった。

## 2.3. 分析方法

### 2.3.1. 受賞歴の違いによる各設問に対する平均値の差の分析

共通教育賞の受賞歴によって、授業評価アンケートの結果にどのような差が存在するかを確認するため、2007年～2009年の授業評価アンケートデータ、及び2010年以降の授業評価アンケートデータのそれぞれについて、各回答の授業担当教員の共通教育賞の受賞歴を独立変数、各項目への回答結果を従属変数として、一元配置の分散分析を行った。受賞歴については、「受賞歴なし」、「1回受賞」、「複数回受賞」の3水準とした。等分散性の検定を行った結果、両方のデータセットについて、いずれの項目においても等分散性を仮定できなかったため、Welchの検定を用い、多重比較にはGames-Howellを用いた。なお、表1、表2のいずれについても、回答を間隔尺度として扱えない(1)、(9)、(10)、(13)は分析から除外した。

### 2.3.2. 受賞歴の違いによる自由記述に含まれる単語の出現率の分析

共通教育賞の受賞歴によって、授業評価アンケートの自由記述に含まれる単語の出現頻度に違いが見られるかを確認するため、次の手順で分析を行った。分析と解釈を簡単にするため、この分析に関しては、受賞の回数とは考慮せず、「受賞歴なし」、「受賞歴有り」の2水準で比較を行った。

(1) 自由記述の抽出

自由記述に関しては2007年～2009年と2010年以降で設問に特に差は見られないため、2種類の期間のアンケートデータをまとめて分析することとした。この期間の152,436件アンケート結果のうち、自由記述が含まれていたのは45,783件であった。

(2) 基礎的な集計

単語の分析に先立ち、受賞歴ごとの自由記述数やそこに含まれる単語数、一教員あたりの自由記述数や単語数などの基礎的な統計情報を集計した。

(3) 形態素分析

上記の自由記述について、形態素分析プログラム「茶筌」をもちいて、形態素分析を行い、文を単語レベルに分解した。その結果15,090種類、1,450,032語の単語が得られた。さらに、単語ごとに、その単語が含まれていた自由記述がどのような共通教育賞受賞歴をもつ教員について書かれたものであったかを同定した。

(4) 出現比率の算出と検定

単語毎に、非受賞者における出現頻度と、受賞者における出現頻度を算出した。非受賞者に対する総単語数は1,161,732語、受賞者に対する総単語数は288,300語であったため、ある単語  $W(i)$  の非受賞者における出現数を  $h1(i)$ 、受賞者における出現数を  $h2(i)$  とすると、非受賞者における出現率は  $p1(i) = h1(i) / 1161732$ 、受賞者における出現率は  $p2(i) = h2(i) / 288300$  と表せる。この比率に明らかに差があれば、その単語はどちらかのグループにとって特徴的な語であると見なすことができる。ここで、2つのグループの標本数をそれぞれ  $m$ ,  $n$ 、比率を  $p1(i)$ ,  $p2(i)$  としたとき、帰無仮説  $H0: p1(i) = p2(i)$  に対して以下の検定統計量、 $z(i)$  が標準正規分布に従うことを利用して各グループの比率に差があるかを検定した。

$$z(i) = \frac{|p1(i) - p2(i)|}{\sqrt{p(1-p)\left(\frac{1}{m} + \frac{1}{n}\right)}}$$

なお、この式において  $m=1161732$ ,  $n=288300$  であり、 $p$  は以下の式で表される2つのグループの加重平均である。

$$p = \frac{p1(i)m + p2(i)n}{m + n}$$

各単語に対する  $z(i)$  の値をもとに有意確率を算出し、有意確率が0.05未満となる単語のみを抽出した。このとき、各グループにおいて出現頻度が10に満たない単語については、分析から除外した。その結果、432語につ

いて、それぞれのグループの出現比率が得られた。

(5) 非受賞者と受賞者における出現比率の比による絞り込み

標本の数が多い場合、わずかな比率の差でも、有意と見なされることが多い。そこで、各グループにとってより特徴的な単語のみを抽出するため、前述した、非受賞者における、ある単語の出現率  $p1(i)$  と、受賞者における、その単語の出現率  $p2(i)$  を用いて、以下の式により両者の比  $r$  を求めた。

$$r = \frac{p1(i)}{p2(i)}$$

比の値  $r$  が1の場合に両者における出現率が等しくなるため、出現率に2割以上の差が出るように、比の値が0.8未満もしくは1.2より大きい単語のみを抽出した。その結果、最終的に379語について、それぞれのグループの出現比率が得られた。なお、添付資料の表s-1から表s-10のなかで、「非受賞者と受賞者における出現割合の比率」の列に示されているのは、各単語に対する上記  $r$  の値である。

### 3. 結果

#### 3.1. 受賞歴の違いによる各設問に対する平均値の差の分析結果

Welchの検定の結果、2007年～2009年のデータについても、2010年以降のデータについても、全ての設問項目で、共通教育賞の受賞の有無による有意差が1%水準で見られた。また、Games-Howellによる多重比較では、2007年～2009年のデータについては、表3のとおり、設問2及び設問3の非受賞者群と複数回受賞者群以外の全ての組み合わせにおいて、1%水準で有意差が見られた。2010年以降のデータについては、表4のとおり、設問2の非受賞者と1回受賞者及び、設問3の非受賞者と複数回受賞者以外の全ての組み合わせにおいて、1%水準で有意差が見られた。各グループの各設問に対する平均値と標準偏差については、表3、表4に示したとおりである。2007年～2009年年のデータにおける、各設問のグループ間の平均値の差を表5に、2010年以降のデータにおける、各設問のグループ間の平均値の差を表6に示した。

#### 3.2. 受賞歴の違いによる自由記述に含まれる単語の出現率の分析

単語の出現率の分析結果に先立ち、グループ毎の教員

表3 2007年～2009年の各設問におけるグループごとの平均値

2007～2009年のアンケート		a. 非受賞者	b. 1回受賞者	c. 複数回受賞者	有意差のある組み合わせ
設問2	平均値	3.40	3.33	3.30	a-b, a-c
	標準偏差	0.83	0.74	0.74	
設問3	平均値	3.30	3.22	3.24	a-b, a-c
	標準偏差	0.72	0.63	0.65	
設問4	平均値	3.25	3.48	3.65	全て
	標準偏差	1.20	1.14	1.14	
設問5	平均値	3.49	3.77	3.92	全て
	標準偏差	1.06	1.00	0.93	
設問6	平均値	3.37	3.73	3.95	全て
	標準偏差	1.18	1.11	1.04	
設問7	平均値	3.26	3.45	3.75	全て
	標準偏差	1.12	1.09	1.04	
設問8	平均値	3.18	3.44	3.73	全て
	標準偏差	1.19	1.15	1.12	
設問11	平均値	3.33	3.57	3.65	全て
	標準偏差	1.10	1.03	0.99	
設問12	平均値	3.50	3.83	4.00	全て
	標準偏差	1.16	1.07	1.01	

表4 2010年以降の各設問におけるグループごとの平均値

2010年以降のアンケート		a. 非受賞者	b. 1回受賞者	c. 複数回受賞者	有意差のある組み合わせ
設問2	平均値	3.34	3.34	3.38	b-c, a-c
	標準偏差	0.82	0.77	0.76	
設問3	平均値	3.26	3.23	3.28	a-b, b-c
	標準偏差	0.70	0.65	0.69	
設問4	平均値	3.40	3.60	3.75	全て
	標準偏差	1.11	1.05	1.06	
設問5	平均値	3.71	3.80	3.95	全て
	標準偏差	0.94	0.90	0.88	
設問6	平均値	3.49	3.73	3.89	全て
	標準偏差	1.15	1.10	1.06	
設問7	平均値	3.48	3.62	3.85	全て
	標準偏差	1.10	1.07	1.03	
設問8	平均値	3.27	3.40	3.66	全て
	標準偏差	1.20	1.16	1.11	
設問11	平均値	3.43	3.61	3.72	全て
	標準偏差	1.05	0.99	0.97	
設問12	平均値	3.60	3.83	3.96	全て
	標準偏差	1.13	1.05	1.01	

表5 2007～09年のグループ間の平均値の差

2007～09年	cとaの差	bとaの差	cとbの差
設問2	-0.10	-0.07	-0.02
設問3	-0.06	-0.08	0.02
設問4	0.41	0.23	0.18
設問5	0.43	0.28	0.15
設問6	0.59	0.36	0.22
設問7	0.49	0.19	0.30
設問8	0.55	0.26	0.28
設問11	0.31	0.23	0.08
設問12	0.50	0.34	0.17

表6 2010年以降のグループ間の平均値の差

2010年以降	cとaの差	bとaの差	cとbの差
設問2	0.04	0.00	0.04
設問3	0.03	-0.03	0.05
設問4	0.35	0.19	0.15
設問5	0.24	0.09	0.15
設問6	0.41	0.25	0.16
設問7	0.37	0.14	0.23
設問8	0.39	0.12	0.27
設問11	0.30	0.19	0.11
設問12	0.36	0.23	0.14

数や自由記述数、単語数など、自由記述に関わる基礎的な統計情報の集計結果を表7に示した。

受賞歴の違いによる単語の出現率については、2.3.2. (5) で述べた $r$ の値を利用して、品詞ごとに、「受賞歴がある教員に対して相対的に多く使われた単語の表」と、「受賞歴がない教員に対して相対的に多く使われた単語の表」の二種類の表を作成した。各表において、「非受賞者と受賞者における出現割合の比率」の列に示された値が $r$ の値である。受賞歴がある教員に対して相対的に多く使われた単語の表は $r$ の値が0.8未満の単語のみを集めた表である。これらの表においては、表の上部の単語ほど、受賞歴がある教員に対する出現率が、受賞歴がない教員に対する出現率に比べて相対的に高くなるように、 $r$ の値が小さい順にソートされている。逆に、受賞歴がない教員に対して相対的に多く使われた単語の表は $r$ の値が1.2より大きい単語を集めた表である。これらの表においては、表の上部の単語ほど、受賞歴がない教員に対する出現率が、受賞歴がある教員に対する出現率に比べて相対的に高くなるように、 $r$ の値が大きい順にソートされている。各表には、形態素分析に用いた「茶筌」の分類による品詞や、各単語の出現頻度や割合、比率の差の検定における有意確率も示した。

この前提に従い、添付資料の表s-1には受賞歴がある教員に対して利用された割合が、受賞歴がない教員に対して利用された場合と比べて相対的に高い名詞を示した。表s-2には受賞歴がない教員に対して利用された割合が、受賞歴がある教員に対して利用された場合と比べて相対的に高い名詞を示した。表s-3、表s-4には同様に動詞、表s-5、表s-6には同様に形容詞、表s-7、表s-8には同様に形容詞、表s-9、表s-10には同様にその他の品詞を示した。なお、未知語は名詞として扱った。

#### 4. 考察

##### 4.1. 受賞歴の違いによる各設問に対する平均値の差の分析に対する考察

共通教育賞の受賞歴の違いによる授業評価アンケートの各設問の平均値の差を検討するにあたって、まず2007年～2009年の授業評価アンケートと2010年のアンケートの違いについて確認する。設問2から設問4及び設問6、7、9、10、12に関しては、設問は同じか例示の仕方が変わっただけで、実質的に同じものと考えてよいと思われる。それに対し、設問5は2007年～2009年分では、一学期を通じた授業の体系性と時間配分の適切性

表7 共通教育賞の受賞歴と授業評価アンケートの自由記述に関わる基本的な統計情報

	教員数(人)	教員割合(%)	自由記述数(件)	自由記述割合(%)	一教員あたりの自由記述数(件)	単語数(語)	単語数割合(%)	一教員あたりの単語数(語)	単語種類(種類)
受賞歴なし	1,257	91.55%	36,446	79.61%	28.99	1,161,732	80.12%	924.21	13,839
1回受賞	92	6.70%	5,757	12.57%	62.58	174,563	12.04%	1,897.42	5,816
複数回受賞	24	1.75%	3,580	7.82%	149.17	113,737	7.84%	4,739.04	4,490
計	1,373	100.00%	45,783	100.00%	33.35	1,450,032	100.00%	1,056.10	15,090

を問うている一方、2010年以降分では、シラバスに即した体系性を問うている。また、設問8は、前者では学生とのコミュニケーションに対する教員の熱心さを問うているのに対し、後者ではコミュニケーションに対する教員の配慮の程度を問うている。設問11前者は授業に対する理解度、後者は授業で定められた目標に対する達成度を問うている。そゆえ、これらについては直接的な比較は避けるべきであろう。

以上を踏まえた上で、表3、4及び5、6からそれぞれ期間のアンケートにおける、授業歴の違いによる各設問の平均値の差を見てみると、いずれの期間においても、基本的に同じ傾向が見られた。すなわち、設問1、設問2の難易度と分量に関しては、受賞歴による差はわずかなものであるが、その他の設問に関しては、非受賞者<1回受賞者<複数回受賞者の順序で、一定の一貫した差があることが確認出来た。このことから、設問1と設問2以外の項目で測定されている観点については、いずれもその観点を満たすように努力することが、学生にとって「優れた授業」と見なされることにつながることを考えられる。設問1と2の難易度と分量に関しては3が「ちょうどよい」であり、各グループの平均値はいずれも3を少し上回った値である。このことから、難易度と分量に関して「優れた授業」と感じられる最適点は「ちょうどよい」より少しだけ負荷が高いあたりであり、この観点に関しては受賞歴に関わらず達成できている教員が多いものと推察される。

個別の設問に着目すると、非受賞者と、1回受賞者や複数回受賞者との差が最も大きかったのは、いずれのアンケート期間においても、教員の話し方や説明の仕方のわかりやすさを問う設問6であった。これまでも教員の話し方や説明の仕方のわかりやすさに関しては、授業の満足度などに強い影響を与える可能性が示唆されていた(松河・齊藤 2011)が、この項目は、学生が「優れた授業」を判断するうえにおいても、重要な手がかりとなっている可能性が示された。

また設問6について、複数回受賞者と非受賞者の差が大きかったのは、いずれのアンケート期間においても設

問8であった。設問8は前述したとおり、一方がコミュニケーションに対する教員の「熱心さ」を問うのに対し、他方は「配慮」を問うているが、いずれにせよ「優れた授業」として、学生とのコミュニケーションは重要であるという結果が示されたといえよう。

今回の研究は、授業評価アンケートの項目に対する得点と、共通教育賞の関係に閉じたものであるため、授業評価アンケートの項目に含まれない要因が、学生による「優れた授業」の知覚に影響を与えている可能性は排除できない。しかし、ほとんどの項目で、受賞歴と得点の間に一貫した単調増加の関係が見られたことから考えると、共通教育賞受賞者を推薦するにあたって、授業評価アンケートで測定されている項目と質的に大きく異なった軸(例えば表面的なおもしろさや、単位の取りやすさなど)に従って、候補者の選定を行っている可能性は低いと考えられる。

#### 4.2. 受賞歴の違いによる自由記述に含まれる単語の出現率の分析に対する考察

単語の出現率の分析に先立ち、表6の結果から共通教育賞の受賞歴の違いによる、授業評価アンケートの自由記述に関する、基本的な統計情報を確認する。この結果は、2007年から2010年1学期までの自由記述45,783件に基づいたものである。まず受賞歴について確認すると、受賞歴がない教員は91.55%であるのに対して、受賞歴が一回の教員は6.70%、受賞歴が複数回の教員は1.75%であった。それに対し、自由記述は、受賞歴がない教員に対しては79.61%、一回の教員に対しては12.57%、複数回の教員に対しては7.82%と、受賞歴が多い教員に対して、相対的に多くの自由記述が書き込まれていることがわかる。このことは、一教員あたりの自由記述数にはっきり現れており、受賞歴がない教員に対しては平均28.99件であるのに対し、一回の教員に対しては62.58件、複数回の教員に対しては149.17件であった。同様の傾向は単語数についてもあてはまり、賞歴がない教員に対しては80.12%、一回の教員に対しては12.04%、複数回の教員に対しては7.84%と、自由記述

数とほぼ同じ割合を示している。一教員あたりの単語数についても、賞歴がない教員に対しては平均924.21語、1回の教員に対しては1,897.42語、複数回の教員に対しては4,739.04語と、1人あたりの自由記述の件数とほぼ同じ傾向を表している。

以上のことから、受賞歴が多いほど、自由記述を多く書き込まれていることが確認できる。これは相関関係であり、このことからただちに因果の方向までは知ることはできないが、自由記述に多く書くべきことがある教員が共通教育賞を受けやすいというよりは、共通教育賞に推薦してもよいと思えるほど「優れた授業」を行った教員であるから、授業評価アンケートにおいてわざわざ自由記述を書き込んでもよいと学生が考えたにとらえるのが自然ではないかと思われる。

単語種類については、受賞歴がない教員に対しては12,839種類、1回の教員に対しては5,816種類、複数回の教員に対しては4,490種類であり、自由記述の件数の差を考慮すると、受賞歴がある教員の方が、1人あたりでは、比較的多様な内容を記述された可能性がうかがえた。

なお、今回の分析においては、各授業の受講者数についてはデータが得られていないため、受講者数を考慮に入れた考察を行うことができなかった。仮に、共通教育賞受賞者が、非受賞者に比べて多くの受講者を抱えているとすれば、そのことが原因で、教員1人あたりの自由記述数や単語数が多くなる可能性が考えられる。例えば、非受賞者と複数回受賞者の教員1人あたりの自由記述数の差は5倍程度あるが、このことが、複数回受賞者が非受賞者より平均して5倍多くの受講者を受け持っていることの帰結である可能性はそれほど高くはないと思われる。しかし、この差のうちのいくらかは、受講者数の差の影響を受けていることは十分考えられる。受講者数も考慮にいれた分析を行うことは、今後の課題である。

次に、共通教育賞の受賞歴の有無によって、授業評価アンケートの自由記述中の単語の出現率にどのような差があるのかを品詞ごとに確認する。添付資料の表s-1から表s-10はその結果を品詞ごとに表したものである。表番号が奇数の表は、受賞者に対して相対的に多く使われた単語をまとめた表であり、表番号が偶数の表は、非受賞者に対して相対的に多く使われた単語をまとめた表である。いずれの表においても、表の上位に現れる単語の方が、その対象に対して相対的に多く使われた単語であることを意味している。

表s-1は受賞者に対して相対的に多く使われた名詞の一覧である。名詞は非常に件数が多く解釈が困難だが、これを見ると、「ニュース」や「フランス語」など、特定の授業に対するキーワードに混じって、「ユーモア」、「好感」、「親しみ」、「熱心」、「丁寧」など、授業の肯定的な評価につながる名詞が存在していることがわかる。表s-2は逆に、共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く使われた名詞の一覧である。こちらに関しては、「英文」、「経済」、「歴史」など、授業内容に関する名詞が多数を占める中、「休講」、「退屈」、「単調」、「無駄」といった否定的な名詞が散見される傾向があるように見受けられる。

表s-3は受賞者に対して相対的に多く使われた動詞の一覧である。単語だけでは解釈が難しい面もあるものの「親しむ」、「がんばる」、「楽しむ」、「役立つ」など、肯定的にとらえることができる動詞が含まれている。表s-4は非受賞者に対して相対的に多く使われた動詞の一覧である。こちらも文脈がないため、「すぎる」などやや否定的にとらえられる可能性がある動詞以外に、明らかに否定的な動詞が含まれるとはいえないものの、肯定的にとらえられる動詞があるわけでもないことが確認できる。

表s-5は受賞者に対して相対的に多く使われた形容詞の一覧である。これをみると、「すばらしい」、「優しい」、「楽しい」、「面白い」など、明らかに肯定的な形容詞が多いことがわかる。表s-6は非受賞者に対して相対的に多く使われた形容詞の一覧である。こちらは逆に、「つまらない」、「無い」、「にくい」、「難しい」など、明らかに否定的な形容詞が多いことが対照的である。

表s-7は受賞者に対して相対的に多く使われた副詞の一覧である。こちらも形容詞と同様に「何より」、「大変」、「最も」、「とても」、「本当に」などはっきりとした肯定的な副詞が多く含まれている。それに対し、非受賞者に対して相対的に多く使われた副詞の一覧の表s-8には、「あまりに」、「まったく」、「ほとんど」、「もっと」など、否定的な副詞が多く含まれていることがわかる。

最後に表s-9は受賞者に対して相対的に多く使われたその他の品詞の一覧である。ここでは、接頭辞の「好」、感動詞の「ありがとう」など、肯定的な単語が確認できる一方、非受賞者に対して相対的に多く使われたその他の品詞の一覧である表s-10では、助詞の「ものの」、「しか」、助動詞の「ない」など、否定的な単語が確認できる。

以上、ほとんどの品詞において、受賞者に対して相対的に多く使われた単語においては、肯定的な単語が、非

受賞者に対して相対的に多く使われた語においては否定的な単語が多く確認された。また、その逆の状態は確認されなかった。このことから、共通教育賞受賞者は、授業評価アンケートに自由記述において、非受賞者に比べて肯定的な意見を述べられている可能性が高く、逆に非受賞者は、受賞者に比べて否定的な意見を述べられている可能性が高いことが示唆された。受賞歴の違いによる自由記述に含まれる単語の出現率の分析からも、共通教育賞と授業評価アンケートの評価の一貫性が確認されたといえよう。

## 5. まとめ

本研究では、「優れた授業」とされるものにどのような要因が関わっているのかを明らかにするため、共通教育賞の受賞歴によって、授業評価アンケートの結果にどのような差が存在するかを、授業評価アンケートの各項目の得点や、自由記述に含まれる単語の出現率に着目して検討した。その結果、共通教育賞受賞歴が多いほど、授業評価アンケートの得点は、ほとんどの項目においてより好ましいものになっていること、共通教育賞受賞者は、非受賞者に比べて、授業評価アンケートの自由記述において、より多くの意見を受けていること、共通教育賞受賞者に対する自由記述には、非受賞者に比べて肯定的な意味を持つ単語がより多く含まれ、逆に非受賞者に対する自由記述には、受賞者に比べて否定的な意味を持つ単語がより多く含まれることが明らかになった。このことから、共通教育賞で推薦される教員が行っている「優れた授業」は、授業評価アンケートで測定される要素において優れており、自由記述で述べられる意見の内容ともある程度の一貫性を持っていることが確認できた。

今回の分析の結果からは、少なからぬ他大学が行っているように（永原ほか 2011）、授業評価アンケートの結果をもちいて、「優れた授業」を行っているかどうかを決定できる可能性が示唆された。例えば、いくつかの質問項目に対する平均点が高い教員は、「優れた授業」を行っているとみなしたとしても、これまでの共通教育賞アンケートによる推薦と、大きく矛盾した結果は生まれない可能性がある。アンケートの自由記述も組み合わせることで、より精度を高められる可能性も考えられる。もちろん、高い信頼性を確保するためには、例えば教員の熱心さなどのように、現行のアンケートで測定されていない項目が、「優れた授業」の知覚に影響を

与えることが本当にはないのかといったことを、慎重に確認していくことが必要である。

現時点では共通教育賞は実施されていないため、授業評価アンケートの結果から、共通教育賞の受賞の可能性を検討するモデルをつくるような研究は、直接的には必要ないかもしれない。しかし、受賞回数と授業評価アンケートの得点の関係をより詳細に分析したり、受賞回数によって、授業評価アンケートの自由記述の内容がどのように異なるかを分類したりするなど、両者の関係をより詳細に検討すれば、「優れた授業」を行っている教員を、これまでより容易に見いだすことができるようになると思われる。そうすることで、「優れた授業」を行っている教員をこれまでよりも多数見つけ出し、それらの教員が行っている授業を、他の教員に紹介するなど、FD活動に応用していくことが、今後の課題となるであろう。

2013.1.4 受付 / 2013.2.14 受理

## 参考文献

- 絹川正吉・館昭編著 2004 学士課程教育の改革, 東信堂, 東京, pp138
- 九州大学2012 教員等の報奨制度. [http://www.kyushu-u.ac.jp/university/incentive\\_system/](http://www.kyushu-u.ac.jp/university/incentive_system/) (参照日 2013.01.28)
- 永原和夫・菅原良・松岡審爾・池田官司 2011 学生による授業評価に関する全国調査. 北海道文教大学論集, (12) : 157-172
- 松河秀哉・齊藤貴浩 2011 データ・テキストマイニングを活用した授業評価アンケートフィードバックシステムの開発と評価. 日本教育工学会論文誌, 35 (3) : 217-226
- 文部科学省 2011 大学における教育内容等の改革状況について (平成21年度). [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/04052801/\\_icsFiles/afieldfile/2011/08/25/1310269\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2011/08/25/1310269_1.pdf)

添付資料

表 s-1 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された名詞 (1)

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
ニュース	名詞-一般	126	263	0.011	0.091	0.119	0.000
情勢	名詞-一般	20	41	0.002	0.014	0.121	0.000
フィードバック	名詞-サ変接続	11	19	0.001	0.007	0.144	0.000
動詞	名詞-一般	20	34	0.002	0.012	0.146	0.000
暗唱	名詞-サ変接続	25	39	0.002	0.014	0.159	0.000
絵画	名詞-一般	16	23	0.001	0.008	0.173	0.000
活躍	名詞-サ変接続	10	13	0.001	0.005	0.191	0.000
隔週	名詞-副詞可能	10	12	0.001	0.004	0.207	0.000
フランス語	名詞-一般	250	293	0.022	0.102	0.212	0.000
メディア	名詞-一般	23	26	0.002	0.009	0.220	0.000
出来事	名詞-一般	13	14	0.001	0.005	0.230	0.000
海外	名詞-一般	42	44	0.004	0.015	0.237	0.000
例文	名詞-一般	29	30	0.002	0.010	0.240	0.000
多角	名詞-一般	16	16	0.001	0.006	0.248	0.000
楽器	名詞-一般	10	10	0.001	0.003	0.248	0.001
ホワイト	名詞-一般	23	23	0.002	0.008	0.248	0.000
細胞	名詞-一般	25	24	0.002	0.008	0.259	0.000
気軽	名詞-形容動詞語幹	22	21	0.002	0.007	0.260	0.000
熱	名詞-一般	19	18	0.002	0.006	0.262	0.000
最新	名詞-一般	38	36	0.003	0.012	0.262	0.000
編	名詞-接尾-一般	15	14	0.001	0.005	0.266	0.000
最先端	名詞-一般	41	37	0.004	0.013	0.275	0.000
斬新	名詞-形容動詞語幹	19	17	0.002	0.006	0.277	0.000
活用	名詞-サ変接続	134	111	0.012	0.039	0.300	0.000
ボード	名詞-一般	28	23	0.002	0.008	0.302	0.000
宇宙	名詞-一般	71	56	0.006	0.019	0.315	0.000
物事	名詞-一般	35	27	0.003	0.009	0.322	0.000
芸術	名詞-一般	29	22	0.002	0.008	0.327	0.000
地球	名詞-一般	42	31	0.004	0.011	0.336	0.000
事件	名詞-一般	15	11	0.001	0.004	0.338	0.004
ドイツ語	名詞-一般	654	461	0.056	0.160	0.352	0.000
フランス	名詞-固有名詞-地域-国	84	59	0.007	0.020	0.353	0.000
初級	名詞-一般	46	32	0.004	0.011	0.357	0.000
シート	名詞-一般	16	11	0.001	0.004	0.361	0.007
自宅	名詞-一般	34	23	0.003	0.008	0.367	0.000
医学	名詞-一般	63	42	0.005	0.015	0.372	0.000
アンケート	名詞-一般	103	67	0.009	0.023	0.382	0.000
是非	名詞-サ変接続	20	13	0.002	0.005	0.382	0.005
法則	名詞-一般	17	11	0.001	0.004	0.384	0.010
配点	名詞-一般	17	11	0.001	0.004	0.384	0.010
厳密	名詞-形容動詞語幹	16	10	0.001	0.003	0.397	0.018
生	名詞-形容動詞語幹	56	35	0.005	0.012	0.397	0.000
国際	名詞-一般	83	51	0.007	0.018	0.404	0.000
固定	名詞-サ変接続	18	11	0.002	0.004	0.406	0.015
表	名詞-一般	18	11	0.002	0.004	0.406	0.015
独	名詞-固有名詞-地域-国	25	15	0.002	0.005	0.414	0.005
統計	名詞-サ変接続	126	75	0.011	0.026	0.417	0.000
発	名詞-接尾-助数詞	17	10	0.001	0.003	0.422	0.026
C A L L	未知語	23	13	0.002	0.005	0.439	0.015
完璧	名詞-形容動詞語幹	32	18	0.003	0.006	0.441	0.004
本質	名詞-一般	25	14	0.002	0.005	0.443	0.012
暗記	名詞-サ変接続	126	70	0.011	0.024	0.447	0.000

表 s-1 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された名詞 (2)

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
番	名詞-接尾-助数詞	20	11	0.002	0.004	0.451	0.030
理学部	名詞-一般	20	11	0.002	0.004	0.451	0.030
ユーモア	名詞-一般	31	17	0.003	0.006	0.453	0.007
ゲスト	名詞-一般	24	13	0.002	0.005	0.458	0.020
姿勢	名詞-一般	90	48	0.008	0.017	0.465	0.000
会話	名詞-サ変接続	370	195	0.032	0.068	0.471	0.000
す	名詞-一般	19	10	0.002	0.003	0.472	0.049
数学	名詞-一般	477	249	0.041	0.086	0.475	0.000
見方	名詞-一般	71	37	0.006	0.013	0.476	0.000
好感	名詞-一般	60	31	0.005	0.011	0.480	0.001
好奇	名詞-一般	31	16	0.003	0.006	0.481	0.015
憲法	名詞-一般	106	54	0.009	0.019	0.487	0.000
人柄	名詞-一般	77	39	0.007	0.014	0.490	0.000
圏	名詞-接尾-一般	24	12	0.002	0.004	0.496	0.043
休憩	名詞-サ変接続	26	13	0.002	0.005	0.496	0.035
親しみ	名詞-一般	32	16	0.003	0.006	0.496	0.020
班	名詞-一般	63	31	0.005	0.011	0.504	0.001
辞書	名詞-一般	55	27	0.005	0.009	0.506	0.003
P C	未知語	51	25	0.004	0.009	0.506	0.004
抵抗	名詞-サ変接続	41	20	0.004	0.007	0.509	0.012
最高	名詞-一般	71	34	0.006	0.012	0.518	0.001
w e b	未知語	40	19	0.003	0.007	0.522	0.018
記述	名詞-サ変接続	40	19	0.003	0.007	0.522	0.018
笑	名詞-固有名詞-人名-名	34	16	0.003	0.006	0.527	0.032
新聞	名詞-一般	120	56	0.010	0.019	0.532	0.000
英字	名詞-一般	58	27	0.005	0.009	0.533	0.006
文法	名詞-一般	721	335	0.062	0.116	0.534	0.000
世界	名詞-一般	330	153	0.028	0.053	0.535	0.000
目	名詞-一般	104	48	0.009	0.017	0.538	0.000
週間	名詞-接尾-助数詞	89	41	0.008	0.014	0.539	0.001
観	名詞-接尾-一般	35	16	0.003	0.006	0.543	0.040
独特	名詞-形容動詞語幹	33	15	0.003	0.005	0.546	0.048
セメ	未知語	197	89	0.017	0.031	0.549	0.000
書き方	名詞-一般	116	52	0.010	0.018	0.554	0.000
意欲	名詞-一般	123	55	0.011	0.019	0.555	0.000
一生懸命	名詞-副詞可能	36	16	0.003	0.006	0.558	0.049
気持ち	名詞-一般	88	39	0.008	0.014	0.560	0.002
周り	名詞-一般	61	27	0.005	0.009	0.561	0.011
コメント	名詞-サ変接続	82	36	0.007	0.012	0.565	0.004
視点	名詞-一般	171	75	0.015	0.026	0.566	0.000
人	名詞-接尾-一般	103	45	0.009	0.016	0.568	0.001
観点	名詞-一般	53	23	0.005	0.008	0.572	0.023
家	名詞-一般	77	33	0.007	0.011	0.579	0.008
外国	名詞-一般	168	71	0.014	0.025	0.587	0.000
なか	名詞-非自立-副詞可能	45	19	0.004	0.007	0.588	0.049
学問	名詞-サ変接続	64	27	0.006	0.009	0.588	0.019
時事	名詞-一般	57	24	0.005	0.008	0.589	0.028
システム	名詞-一般	81	34	0.007	0.012	0.591	0.009
文	名詞-一般	146	61	0.013	0.021	0.594	0.001
楽しみ	名詞-一般	103	43	0.009	0.015	0.594	0.004
熱心	名詞-形容動詞語幹	235	98	0.020	0.034	0.595	0.000
記事	名詞-一般	99	41	0.009	0.014	0.599	0.005

表 s-1 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された名詞 (3)

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
解析	名詞-サ変接続	138	57	0.012	0.020	0.601	0.001
論理	名詞-一般	51	21	0.004	0.007	0.603	0.048
ひとつ	名詞-副詞可能	61	25	0.005	0.009	0.606	0.033
音読	名詞-サ変接続	59	24	0.005	0.008	0.610	0.039
社会	名詞-一般	237	96	0.020	0.033	0.613	0.000
基準	名詞-一般	79	32	0.007	0.011	0.613	0.018
一番	名詞-副詞可能	252	102	0.022	0.035	0.613	0.000
環境	名詞-一般	147	59	0.013	0.020	0.618	0.002
魅力	名詞-一般	60	24	0.005	0.008	0.620	0.046
国	名詞-一般	98	39	0.008	0.014	0.624	0.012
作文	名詞-サ変接続	83	33	0.007	0.011	0.624	0.021
ドイツ	名詞-固有名詞-地域-国	239	95	0.021	0.033	0.624	0.000
口頭	名詞-一般	124	49	0.011	0.017	0.628	0.005
ホームページ	名詞-一般	81	32	0.007	0.011	0.628	0.025
定着	名詞-サ変接続	92	36	0.008	0.012	0.634	0.019
質問	名詞-サ変接続	1090	425	0.094	0.147	0.636	0.000
物理	名詞-一般	420	163	0.036	0.057	0.639	0.000
パソコン	名詞-一般	557	214	0.048	0.074	0.646	0.000
大切	名詞-形容動詞語幹	118	45	0.010	0.016	0.651	0.013
宿題	名詞-サ変接続	418	159	0.036	0.055	0.652	0.000
普通	名詞-形容動詞語幹	100	38	0.009	0.013	0.653	0.024
別	名詞-一般	79	30	0.007	0.010	0.653	0.046
後期	名詞-一般	87	33	0.007	0.011	0.654	0.037
感謝	名詞-サ変接続	90	34	0.008	0.012	0.657	0.035
コミュニケーション	名詞-一般	378	141	0.033	0.049	0.665	0.000
後	名詞-接尾-副詞可能	196	73	0.017	0.025	0.666	0.003
いつ	名詞-副詞可能	191	71	0.016	0.025	0.668	0.003
自習	名詞-サ変接続	89	33	0.008	0.011	0.669	0.047
復習	名詞-サ変接続	834	308	0.072	0.107	0.672	0.000
おかげ	名詞-一般	350	129	0.030	0.045	0.673	0.000
文系	名詞-一般	329	121	0.028	0.042	0.675	0.000
毎週	名詞-副詞可能	322	117	0.028	0.041	0.683	0.000
きれい	名詞-形容動詞語幹	108	39	0.009	0.014	0.687	0.043
くだ	名詞-一般	133	48	0.011	0.017	0.688	0.025
体系	名詞-一般	146	52	0.013	0.018	0.697	0.024
身近	名詞-形容動詞語幹	176	62	0.015	0.022	0.704	0.017
例	名詞-一般	216	76	0.019	0.026	0.705	0.009
学習	名詞-サ変接続	645	223	0.056	0.077	0.718	0.000
丁寧	名詞-形容動詞語幹	1137	389	0.098	0.135	0.725	0.000
さん	名詞-接尾-人名	211	72	0.018	0.025	0.727	0.019
力	名詞-一般	376	128	0.032	0.044	0.729	0.002
セメスター	未知語	187	63	0.016	0.022	0.737	0.035
二	名詞-数	212	71	0.018	0.025	0.741	0.028
考え方	名詞-一般	200	66	0.017	0.023	0.752	0.044
さ	名詞-接尾-特殊	643	211	0.055	0.073	0.756	0.000
黒板	名詞-一般	864	282	0.074	0.098	0.760	0.000
言語	名詞-一般	215	70	0.019	0.024	0.762	0.048
確認	名詞-サ変接続	307	99	0.026	0.034	0.770	0.023
身	名詞-一般	608	196	0.052	0.068	0.770	0.001
日本	名詞-固有名詞-地域-国	264	85	0.023	0.029	0.771	0.036
好き	名詞-形容動詞語幹	348	112	0.030	0.039	0.771	0.016
非常	名詞-形容動詞語幹	1590	505	0.137	0.175	0.781	0.000
毎回	名詞-副詞可能	2013	639	0.173	0.222	0.782	0.000

表 s-2 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用された名詞 (1)

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
英文	名詞-一般	405	13	0.035	0.005	7.731	0.000
休講	名詞-サ変接続	196	11	0.017	0.004	4.422	0.000
文学	名詞-一般	185	12	0.016	0.004	3.826	0.000
経済	名詞-一般	192	14	0.017	0.005	3.403	0.000
ロシア	名詞-固有名詞-地域-国	133	10	0.011	0.003	3.301	0.000
連絡	名詞-サ変接続	133	10	0.011	0.003	3.301	0.000
退屈	名詞-形容動詞語幹	134	12	0.012	0.004	2.771	0.000
発言	名詞-サ変接続	212	19	0.018	0.007	2.769	0.000
的	名詞-一般	111	10	0.010	0.003	2.755	0.001
対策	名詞-サ変接続	186	17	0.016	0.006	2.715	0.000
延長	名詞-サ変接続	100	10	0.009	0.003	2.482	0.005
初心者	名詞-一般	118	12	0.010	0.004	2.440	0.002
メモ	名詞-サ変接続	106	11	0.009	0.004	2.391	0.005
学部	名詞-一般	201	21	0.017	0.007	2.375	0.000
歴史	名詞-一般	275	29	0.024	0.010	2.353	0.000
前提	名詞-一般	89	10	0.008	0.003	2.209	0.015
前半	名詞-一般	204	23	0.018	0.008	2.201	0.000
音楽	名詞-一般	146	17	0.013	0.006	2.131	0.002
指示	名詞-サ変接続	111	13	0.010	0.005	2.119	0.009
応用	名詞-サ変接続	83	10	0.007	0.003	2.060	0.027
単調	名詞-形容動詞語幹	114	14	0.010	0.005	2.021	0.011
関連	名詞-サ変接続	146	18	0.013	0.006	2.013	0.004
議論	名詞-サ変接続	120	15	0.010	0.005	1.985	0.011
資料	名詞-一般	531	67	0.046	0.023	1.967	0.000
生物	名詞-一般	470	60	0.040	0.021	1.944	0.000
映画	名詞-一般	532	68	0.046	0.024	1.942	0.000
事前	名詞-一般	101	13	0.009	0.005	1.928	0.023
手	名詞-一般	155	20	0.013	0.007	1.923	0.005
適当	名詞-形容動詞語幹	85	11	0.007	0.004	1.918	0.039
写真	名詞-一般	123	16	0.011	0.006	1.908	0.013
声	名詞-一般	800	106	0.069	0.037	1.873	0.000
完全	名詞-形容動詞語幹	83	11	0.007	0.004	1.873	0.047
アップ	名詞-サ変接続	105	14	0.009	0.005	1.861	0.026
ディクテーション	名詞-一般	89	12	0.008	0.004	1.841	0.044
結局	名詞-副詞可能	177	24	0.015	0.008	1.830	0.005
語	名詞-接尾-一般	361	49	0.031	0.017	1.828	0.000
心理	名詞-一般	159	22	0.014	0.008	1.794	0.009
史	名詞-接尾-一般	231	32	0.020	0.011	1.791	0.002
バス	名詞-一般	207	29	0.018	0.010	1.771	0.003
段階	名詞-一般	99	14	0.009	0.005	1.755	0.046
考え	名詞-一般	176	25	0.015	0.009	1.747	0.008
マイク	名詞-一般	274	39	0.024	0.014	1.744	0.001
ディスカッション	名詞-サ変接続	323	46	0.028	0.016	1.743	0.000
それぞれ	名詞-副詞可能	126	18	0.011	0.006	1.737	0.026
側	名詞-接尾-一般	112	16	0.010	0.006	1.737	0.036
シ	名詞-一般	195	28	0.017	0.010	1.728	0.006
室	名詞-接尾-一般	111	16	0.010	0.006	1.722	0.040
間	名詞-非自立-副詞可能	124	18	0.011	0.006	1.710	0.031
用語	名詞-一般	151	22	0.013	0.008	1.703	0.018
差	名詞-一般	231	34	0.020	0.012	1.686	0.004
遅刻	名詞-サ変接続	149	22	0.013	0.008	1.681	0.021
少人数	名詞-一般	135	20	0.012	0.007	1.675	0.029

表 s-2 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用された名詞 (2)

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
内	名詞-接尾-一般	214	32	0.018	0.011	1.660	0.007
専門	名詞-一般	628	94	0.054	0.033	1.658	0.000
5	名詞-数	219	33	0.019	0.011	1.647	0.007
人数	名詞-一般	205	31	0.018	0.011	1.641	0.009
イメージ	名詞-サ変接続	132	20	0.011	0.007	1.638	0.038
哲学	名詞-一般	138	21	0.012	0.007	1.631	0.035
後半	名詞-副詞可能	387	59	0.033	0.020	1.628	0.000
何	名詞-代名詞-一般	1143	176	0.098	0.061	1.612	0.000
言葉	名詞-一般	201	31	0.017	0.011	1.609	0.013
高度	名詞-形容動詞語幹	149	23	0.013	0.008	1.608	0.032
あと	名詞-副詞可能	251	39	0.022	0.014	1.597	0.006
成績	名詞-一般	283	44	0.024	0.015	1.596	0.004
選択	名詞-サ変接続	276	43	0.024	0.015	1.593	0.004
情報	名詞-一般	281	44	0.024	0.015	1.585	0.004
スライド	名詞-サ変接続	685	108	0.059	0.037	1.574	0.000
レジュメ	名詞-一般	564	92	0.049	0.032	1.521	0.000
者	名詞-接尾-一般	298	49	0.026	0.017	1.509	0.007
無駄	名詞-形容動詞語幹	164	27	0.014	0.009	1.507	0.047
レベル	名詞-一般	477	79	0.041	0.027	1.498	0.001
使い方	名詞-一般	196	33	0.017	0.011	1.474	0.038
方	名詞-接尾-一般	200	34	0.017	0.012	1.460	0.040
研究	名詞-サ変接続	294	50	0.025	0.017	1.459	0.013
配布	名詞-サ変接続	401	69	0.035	0.024	1.442	0.005
まま	名詞-非自立-副詞可能	266	46	0.023	0.016	1.435	0.023
意見	名詞-サ変接続	403	70	0.035	0.024	1.429	0.006
理系	名詞-一般	308	54	0.027	0.019	1.415	0.018
パワー	名詞-一般	409	72	0.035	0.025	1.410	0.007
分野	名詞-一般	680	120	0.059	0.042	1.406	0.001
必要	名詞-形容動詞語幹	619	110	0.053	0.038	1.396	0.001
課題	名詞-一般	1217	217	0.105	0.075	1.392	0.000
リスニング	名詞-一般	895	160	0.077	0.055	1.388	0.000
途中	名詞-副詞可能	290	52	0.025	0.018	1.384	0.030
文化	名詞-一般	344	62	0.030	0.022	1.377	0.020
高校	名詞-一般	799	147	0.069	0.051	1.349	0.001
ポイント	名詞-一般	533	99	0.046	0.034	1.336	0.008
化学	名詞-一般	388	73	0.033	0.025	1.319	0.029
テキスト	名詞-一般	658	125	0.057	0.043	1.306	0.006
予習	名詞-サ変接続	1008	192	0.087	0.067	1.303	0.001
3	名詞-数	393	75	0.034	0.026	1.300	0.037
発表	名詞-サ変接続	470	90	0.040	0.031	1.296	0.024
参加	名詞-サ変接続	412	79	0.035	0.027	1.294	0.035
プリント	名詞-サ変接続	1035	200	0.089	0.069	1.284	0.001
部分	名詞-一般	688	133	0.059	0.046	1.284	0.008
教授	名詞-一般	657	128	0.057	0.044	1.274	0.012
教科書	名詞-一般	1826	357	0.157	0.124	1.269	0.000
意味	名詞-サ変接続	645	127	0.056	0.044	1.260	0.017
知識	名詞-一般	954	188	0.082	0.065	1.259	0.004
教員	名詞-一般	887	175	0.076	0.061	1.258	0.005
学生	名詞-一般	1650	332	0.142	0.115	1.233	0.000
内容	名詞-一般	6372	1286	0.548	0.446	1.230	0.000
最後	名詞-一般	707	145	0.061	0.050	1.210	0.036
講義	名詞-サ変接続	2597	534	0.224	0.185	1.207	0.000

表 s-3 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された動詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
ぶる	動詞-自立	16	12	0.001	0.004	0.331	0.002
開く	動詞-自立	15	10	0.001	0.003	0.372	0.012
あふれる	動詞-自立	16	10	0.001	0.003	0.397	0.018
がんばる	動詞-自立	53	31	0.005	0.011	0.424	0.000
見つける	動詞-自立	20	11	0.002	0.004	0.451	0.030
生きる	動詞-自立	51	26	0.004	0.009	0.487	0.002
飛ばす	動詞-自立	26	13	0.002	0.005	0.496	0.035
向ける	動詞-自立	42	20	0.004	0.007	0.521	0.015
親しむ	動詞-自立	64	30	0.006	0.010	0.529	0.003
伝わる	動詞-自立	166	76	0.014	0.026	0.542	0.000
覚える	動詞-自立	418	185	0.036	0.064	0.561	0.000
見れる	動詞-自立	99	42	0.009	0.015	0.585	0.003
飽きる	動詞-自立	74	31	0.006	0.011	0.592	0.013
繰り返す	動詞-自立	85	32	0.007	0.011	0.659	0.043
頑張る	動詞-自立	147	55	0.013	0.019	0.663	0.009
さる	動詞-自立	156	57	0.013	0.020	0.679	0.012
もてる	動詞-自立	135	49	0.012	0.017	0.684	0.022
比べる	動詞-自立	163	58	0.014	0.020	0.697	0.018
なれる	動詞-自立	139	49	0.012	0.017	0.704	0.034
用いる	動詞-自立	256	87	0.022	0.030	0.730	0.011
助かる	動詞-自立	307	104	0.026	0.036	0.733	0.006
楽しむ	動詞-自立	265	89	0.023	0.031	0.739	0.013
答える	動詞-自立	486	161	0.042	0.056	0.749	0.001
慣れる	動詞-自立	204	67	0.018	0.023	0.756	0.046
役立つ	動詞-自立	308	99	0.027	0.034	0.772	0.025
くれる	動詞-非自立	2314	723	0.199	0.251	0.794	0.000

表 s-4 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用された動詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
当てる	動詞-自立	175	16	0.015	0.006	2.714	0.000
言える	動詞-自立	121	12	0.010	0.004	2.502	0.002
挙げる	動詞-自立	116	15	0.010	0.005	1.919	0.016
訳す	動詞-自立	146	20	0.013	0.007	1.812	0.011
聞こえる	動詞-自立	307	43	0.026	0.015	1.772	0.000
すぎる	動詞-自立	136	20	0.012	0.007	1.688	0.027
調べる	動詞-自立	141	21	0.012	0.007	1.666	0.027
関わる	動詞-自立	124	19	0.011	0.007	1.620	0.048
得る	動詞-自立	444	72	0.038	0.025	1.530	0.001
求める	動詞-自立	170	28	0.015	0.010	1.507	0.043
来る	動詞-自立	208	35	0.018	0.012	1.475	0.032
増やす	動詞-自立	267	47	0.023	0.016	1.410	0.029
終わる	動詞-自立	533	95	0.046	0.033	1.392	0.003
聞き取る	動詞-自立	463	85	0.040	0.029	1.352	0.010
解く	動詞-自立	362	67	0.031	0.023	1.341	0.027
いる	動詞-自立	636	119	0.055	0.041	1.326	0.005
すぎる	動詞-非自立	2449	468	0.211	0.162	1.299	0.000
言う	動詞-自立	1223	234	0.105	0.081	1.297	0.000
しまう	動詞-非自立	1113	220	0.096	0.076	1.255	0.002
読む	動詞-自立	1057	209	0.091	0.072	1.255	0.003
てる	動詞-非自立	925	188	0.080	0.065	1.221	0.012
せる	動詞-接尾	1065	219	0.092	0.076	1.207	0.011

表 s-5 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された形容詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
暑い	形容詞-自立	17	15	0.001	0.005	0.281	0.000
すばらしい	形容詞-自立	57	43	0.005	0.015	0.329	0.000
くらい	形容詞-自立	24	12	0.002	0.004	0.496	0.043
熱い	形容詞-自立	24	12	0.002	0.004	0.496	0.043
優しい	形容詞-自立	210	102	0.018	0.035	0.511	0.000
素晴らしい	形容詞-自立	156	73	0.013	0.025	0.530	0.000
上手い	形容詞-自立	38	17	0.003	0.006	0.555	0.040
やすい	形容詞-自立	472	195	0.041	0.068	0.601	0.000
やさしい	形容詞-自立	95	37	0.008	0.013	0.637	0.019
やすい	形容詞-非自立	4747	1784	0.409	0.619	0.660	0.000
楽しい	形容詞-自立	2301	841	0.198	0.292	0.679	0.000
すごい	形容詞-自立	556	194	0.048	0.067	0.711	0.000
面白い	形容詞-自立	1757	547	0.151	0.190	0.797	0.000

表 s-6 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用された形容詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
つまらない	形容詞-自立	103	10	0.009	0.003	2.556	0.003
小さい	形容詞-自立	509	53	0.044	0.018	2.383	0.000
づらい	形容詞-非自立	508	73	0.044	0.025	1.727	0.000
無い	形容詞-自立	331	53	0.028	0.018	1.550	0.003
欲しい	形容詞-非自立	666	117	0.057	0.041	1.413	0.001
少ない	形容詞-自立	534	102	0.046	0.035	1.299	0.015
詳しい	形容詞-自立	579	115	0.050	0.040	1.249	0.029
にくい	形容詞-非自立	1618	323	0.139	0.112	1.243	0.000
難しい	形容詞-自立	3958	807	0.341	0.280	1.217	0.000
多い	形容詞-自立	3463	716	0.298	0.248	1.200	0.000

表 s-7 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用された副詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
何より	副詞-助詞類接続	27	17	0.002	0.006	0.394	0.002
だんだん	副詞-助詞類接続	48	24	0.004	0.008	0.496	0.004
大変	副詞-一般	52	23	0.004	0.008	0.561	0.019
最も	副詞-一般	56	24	0.005	0.008	0.579	0.023
常に	副詞-一般	59	24	0.005	0.008	0.610	0.039
たまたま	副詞-一般	190	69	0.016	0.024	0.683	0.006
とても	副詞-助詞類接続	4142	1480	0.357	0.513	0.695	0.000
ちょうど	副詞-一般	195	68	0.017	0.024	0.712	0.015
本当に	副詞-一般	506	172	0.044	0.060	0.730	0.000
やはり	副詞-一般	184	61	0.016	0.021	0.749	0.049

表 s-8 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用された副詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
あまりに	副詞-助詞類接続	188	23	0.016	0.008	2.028	0.001
まず	副詞-一般	149	20	0.013	0.007	1.849	0.009
まったく	副詞-助詞類接続	215	30	0.019	0.010	1.779	0.003
すこし	副詞-助詞類接続	208	33	0.018	0.011	1.564	0.016
多々	副詞-一般	198	33	0.017	0.011	1.489	0.033
はっきり	副詞-助詞類接続	246	42	0.021	0.015	1.454	0.024
ほとんど	副詞-一般	707	124	0.061	0.043	1.415	0.000
全く	副詞-助詞類接続	529	98	0.046	0.034	1.340	0.008
あまり	副詞-助詞類接続	1386	266	0.119	0.092	1.293	0.000
もっと	副詞-一般	2015	387	0.173	0.134	1.292	0.000
どう	副詞-助詞類接続	499	97	0.043	0.034	1.277	0.027
もう少し	副詞-助詞類接続	2468	490	0.212	0.170	1.250	0.000

表 s-9 共通教育賞受賞者に対して相対的に多く利用されたその他の品詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
○	記号-一般	10	11	0.001	0.004	0.226	0.000
好	接頭詞-名詞接続	22	16	0.002	0.006	0.341	0.001
再	接頭詞-名詞接続	70	47	0.006	0.016	0.370	0.000
とともに	助詞-格助詞-連語	32	19	0.003	0.007	0.418	0.002
!	記号-一般	756	411	0.065	0.143	0.456	0.000
と	フィラー	24	13	0.002	0.005	0.458	0.020
けど	接続詞	51	26	0.004	0.009	0.487	0.002
を通じて	助詞-格助詞-連語	66	26	0.006	0.009	0.630	0.044
第	接頭詞-数接続	122	44	0.011	0.015	0.688	0.032
小	接頭詞-名詞接続	1313	451	0.113	0.156	0.722	0.000
ありがとう	感動詞	671	225	0.058	0.078	0.740	0.000
ござる	助動詞	696	223	0.060	0.077	0.775	0.001
同じ	連体詞	375	119	0.032	0.041	0.782	0.019

表 s-10 共通教育賞非受賞者に対して相対的に多く利用されたその他の品詞

単語	品詞	非受賞における出現頻度	受賞者における出現頻度	非受賞における出現割合 (%)	受賞者における出現割合 (%)	非受賞者と受賞者における出現割合の比率	有意確率
ものの	助詞-接続助詞	95	11	0.008	0.004	2.143	0.014
あの	連体詞	132	17	0.011	0.006	1.927	0.010
'	記号-括弧閉	133	19	0.011	0.007	1.737	0.023
,	記号-読点	579	98	0.050	0.034	1.466	0.000
ん	助動詞	1698	317	0.146	0.110	1.329	0.000
しか	助詞-係助詞	406	76	0.035	0.026	1.326	0.024
?	記号-一般	548	103	0.047	0.036	1.320	0.009
「	記号-括弧開	897	170	0.077	0.059	1.309	0.001
」	記号-括弧閉	902	173	0.078	0.060	1.294	0.002
か	助詞-副助詞／並立助詞／終助詞	5097	996	0.439	0.345	1.270	0.000
・	記号-一般	1928	380	0.166	0.132	1.259	0.000
ない	助動詞	13855	2813	1.193	0.976	1.222	0.000

# **The Factors of *Good Practices*: An Analysis of the Relationship between *Osaka University Award for Outstanding Contributions to General Education* and the Results of the Course Evaluation Questionnaire**

Hideya MATSUKAWA

This study aimed to reveal the factors of *good practices* by examining the differences in the results of a course evaluation questionnaire between winners of *Osaka University Award for Outstanding Contributions to General Education* and those who did not win the award. To do so, the average scores for each item of the course evaluation questionnaire and the appearance ratio of words contained in the free descriptions of the questionnaire were compared. The results showed that the average score for most of the items increased according to the experience of winning the award. Besides, the award winners received more free descriptions, and the appearance ratio of words with positive meaning in their descriptions was higher. On the other hand, the appearance ratio of words with negative meaning was higher in the free descriptions of those who did not win the award. Thus, the study indicates that the results of the course evaluation questionnaire were consistent with the experience of winning *the award*.

Keywords:

Course Evaluation Questionnaire, Good Practices, Relationship, Factors